

第34回中山間地域等総合対策検討会
現地検討会行程
(山形県下)

日程：平成21年4月27日～平成21年4月28日
場所：舟形町 大平集落協定、大蔵村 豊牧集落協定
鮭川村 大平・上芦沢集落協定

農村振興局 中山間地域振興課

目 次

○ 中山間地域等直接支払制度の実施状況（H 1 9）	・ ・ ・ ・ ・	1
○ 山形県における中山間地域等直接支払制度の取組状況	・ ・ ・ ・ ・	2
○ 現地調査対象集落の概要	・ ・ ・ ・ ・	4
・ 大平集落協定	・ ・ ・ ・ ・	5
・ 豊牧集落協定	・ ・ ・ ・ ・	1 0
・ 大平・上芦沢集落協定	・ ・ ・ ・ ・	1 6

山形県における中山間地域等直接支払制度の実施状況(平成19年度)

1 交付市町村数

	全 国	山形県
交付市町村数	1,038	34
対象市町村数	1,128	34
/	92%	100%

2 協定数

	全 国	山形県
集落協定	28,253	529
基礎単価	15,047	221
体制整備単価	13,206	308
個別協定	455	18
基礎単価	91	7
体制整備単価	364	11
合計	28,708	547

3 交付面積

	全 国	山形県
交付面積	66万5千ha	8,334ha
基礎単価	13万7千ha	1,876ha
体制整備単価	52万8千ha	6,459ha
対象農用地面積	80万7千ha	9,160ha
交付面積率 /	82%	91%

4 交付金額

	全 国	山形県
交付金額	51,698百万円	1,217百万円

平成20年度中山間地域等直接支払制度の実施状況（見込み）

- 1 実施市町村数 34（対象農用地のある全市町村で実施）
- 2 協定数 545
 - ・集落協定 529（村山地域194、最上地域126、置賜地域78、庄内地域131）
 - ・個別協定 16（村山地域 7、最上地域 8、置賜地域 1、庄内地域 0）
- 3 協定締結面積 8,317ha（制度対象面積の92%で締結）

4 地域別	村山	最上	置賜	庄内
面積	2,291ha	1,906ha	1,324ha	2,796ha
割合	27.6%	22.9%	15.9%	33.6%

対象地域別	体制整備単価	基礎単価
面積	6,453ha	1,864ha
割合	77.6%	22.4%

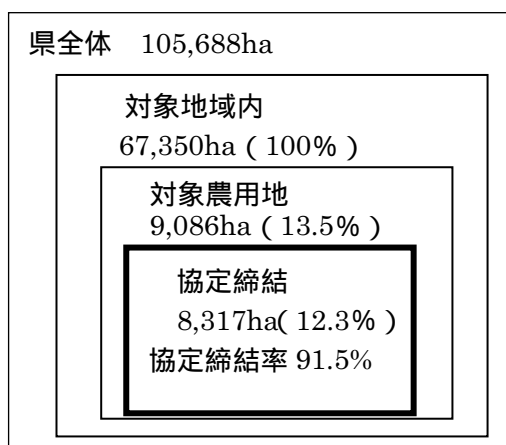
対象地域別	通常基準該当	知事特認基準該当
面積	7,354ha	963ha
割合	88.4%	11.6%

傾斜別	急傾斜	緩傾斜等
面積	4,904ha	3,413ha
割合	59.0%	41.0%

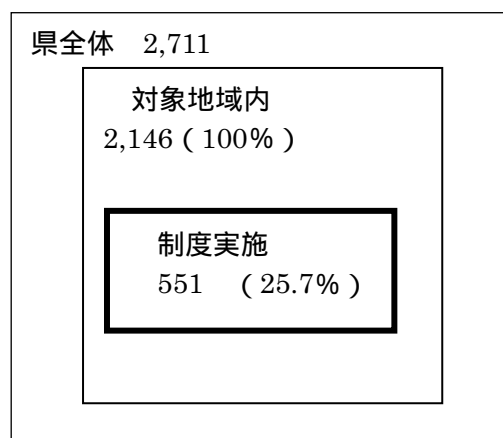
地目別	田	畑	草地	採草放牧地
面積	7,870ha	392ha	55ha	0ha
割合	94.6%	4.7%	0.7%	0%
c.f 全国	72.4%	22.4%	1.2%	4.0%

（注）全国の割合は、北海道を除いた都府県のH19のデータ

- 4 交付総額 12億1千4百万円
（負担額内訳：国 5億7千6百万円、県 3億1千9百万円、市町村 3億1千9百万円）
- 5 対象地域内での本制度の実施状況
 - （1）面積（経営耕地面積）
 - （2）集落数（センサス調査対象農業集落）



「2005年センサス」ほか



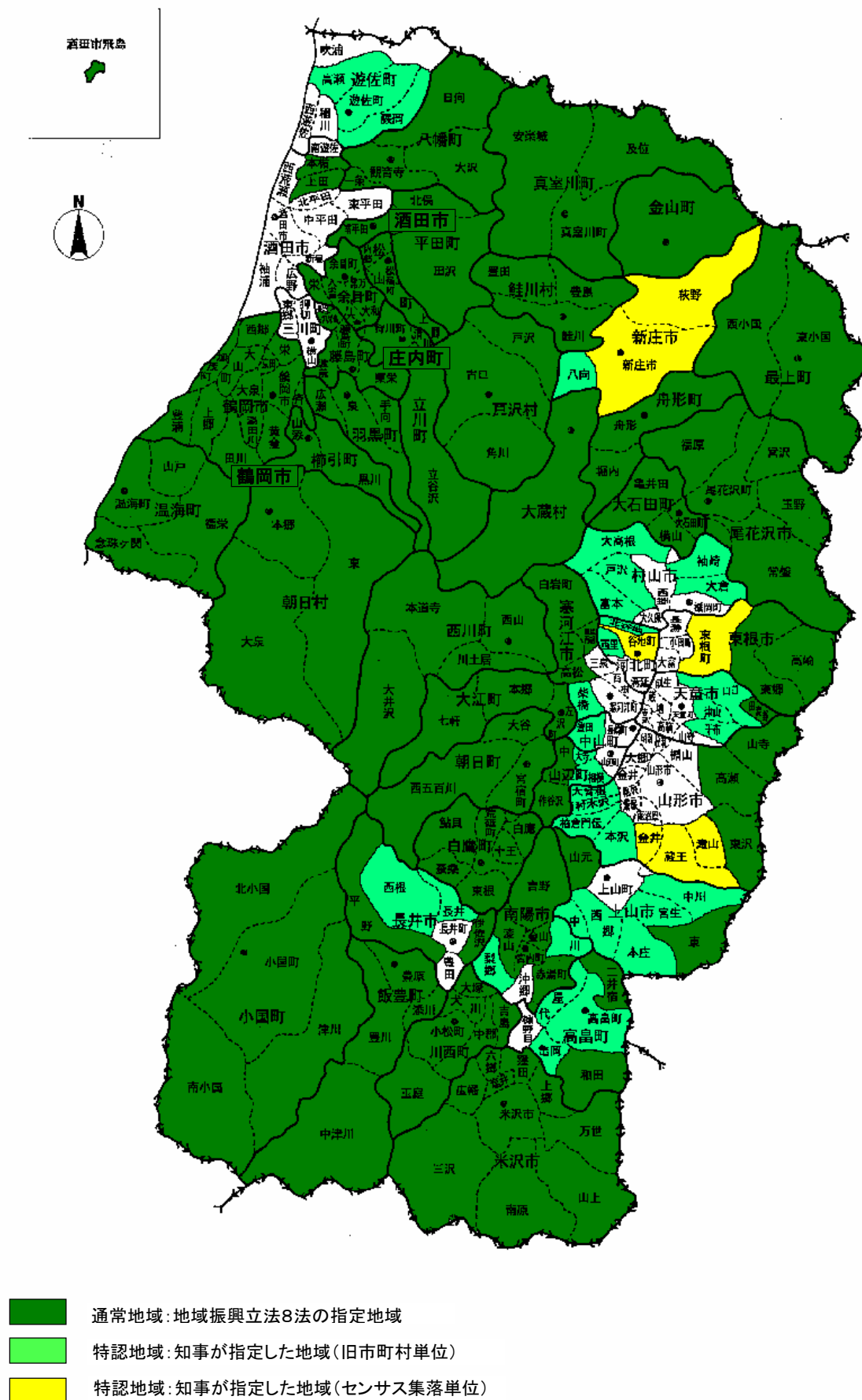
一部センサス調査対象外の農業集落を含む。

- 6 交付金の支出状況（H19実施状況調査から）
 - （1）共同取組活動充当割合
 - 共同取組活動への支出 73%
 - 個人配分への支出 27%
 - （2）交付金の使用方法

〔内訳：個人配分 27.1%、道・水路管理 30.4%、共同利用機械購入 10.9%、多面的機能増進活動 5.8%、農地管理 5.6%、役員報酬 5.2%、積立・繰越 17.1%〕

前年度からの積立・繰越金額を含む。

中山間地域等直接支払制度の対象地域



現地調査対象集落の概要

集 落 名	舟形町大平（ぶながたまちおおだいら）	大蔵村豊牧（おおくらむらとよまさ）	大平・上芦沢（おおだいら・かみあしざわ）
代 表 者 名	野尻 秀幸（のじり ひでゆき）	長南 正一（ちやうなん しょういち）	高橋 清高（たかはし きよたか）
市 町 村 名	舟形町	大蔵村	鯉川村
協 定 面 積	48.9ha 田：急傾斜37.6ha 緩傾斜11.3ha	47.0ha 田：急傾斜47.0ha	31.2ha 田：急傾斜31.2ha
団 地 数	10団地	17団地	5団地
交 付 金 額 （共同活動充当割合）	8,793千円 （80.0%）	9,879千円 （80.0%）	6,561千円 （80.0%）
参 加 者 数	29人 農業者：26人 非農業者：3人	49人 農業者：44人 非農業者：5人	22人・団体 農業者：20人 生産組織：1団体（そば団地生産組合） 曲川小学校芦沢分校
特 徴	農業生産活動等を維持するために非農家を含めた集落全体で協定に取り組んでいる事例	棚田（棚田百選：四ヶ村）を地域資源とした都市交流の推進により地域の活性化を図っている事例	協定の締結をきっかけにソバの生産組合を設立し作業の共同化や地元小学校との連携等により農業生産活動に取り組んでいる事例
活 動 内 容	1 農業生産活動 ○ 耕作放棄の防止等の活動 ○ 水路、農道の維持管理 2 多面的機能増進活動 ○ 景観作物の作付け 3 農業生産活動の体制整備 ○ 認定農業者の育成 ○ 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家との連携	1 農業生産活動 ○ 耕作放棄の防止等の活動 ○ 水路、農道の維持管理 2 多面的機能増進活動 ○ 周辺林地の下草刈 3 農業生産活動の体制整備 ○ 認定農業者の育成 ○ 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携	1 農業生産活動 ○ 耕作放棄の防止等の活動 ○ 水路、農道の維持管理 2 多面的機能増進活動 ○ 景観作物の作付け 3 農業生産活動の体制整備 ○ 機械・農作業の共同化 ○ 自然生態系の保全に関する学校教育等との連携

（平成 20年度実施状況調査より抜粋）

現地検討会を行う集落協定の概要

市町村協定名	山形県舟形町大平（ふながたまち おおだいら）			
協 定 面 積 49ha	田（100％）	畑	草地	採草放牧地
	水稲			
交 付 金 額 8,793千円	個人配分			20%
	共同取組活動 (80%)	役員報酬		1%
		共同利用機械の導入		45%
		水路・農道改費		34%
協定参加者	農業者 26人、非農業者 3人			
取 組 内 容	1 農業生産活動 ○耕作放棄地の防止等の活動 ○水路、農道の維持管理 2 多面的機能増進活動 ○景観作物の作付け 3 農業生産活動の体制整備 ○認定農業者の育成 ○多面的機能の持続的発揮に向けた非農家との連携			

[平成20年度までの主な効果]

- 担い手育成計画により認定農業者の育成が図られた。（目標 1 名、H20実績1名）
- 担い手が明確化したことからコンバイン等の導入により農作業の受委託や農用地の集積が図られた。（H20実績5.9ha）
- 非農家との連携により景観形成作業（花植え約500本）を通じ、多面的機能向上がなされた。また、その延長上に“ホタルの里整備”（他事業）にも結びついた。
- 中山間事業を通して地域のきずなが強まり、人と人との交流が図られた。



山形県最上郡舟形町

～若あゆと古代ロマンの里ふながた～

概 要

本町は、山形県東北部で最上郡の南端に位置し、南北に6.5km、東西に27.4kmと南北に狭く、東西に細長い地形にあります。

総面積は110.03平方メートルで、奥羽山脈と出羽丘陵の山麓に囲まれ最上川に注ぐ小国川と松橋川の2流域に区分され、耕地及び集落は2つの河川沿いに広がりを持ち、町土の7割を占める山林に囲まれています。

気候は、内陸性で冬季夏季の寒暖の差が激しく、冬季間は最上川の峡谷部を吹き抜ける北西の季節風が強く毎年11月下旬から3月までは積雪深2～3mとなり、夏季間は内陸性の盆地的気象で蒸し暑くなります。気温は月平均23.3℃、月平均最低気温が-1.6℃で、月平均気温が10℃以上ある月は5～10月までの6ヵ月間となっています。また、風向きは主に北西風、風速は2.4mでしばしば北太平洋から奥羽山脈の鞍部を越えて冷涼な気流が入り込み、冷害になりやすい気候となっています。

人口は、平成21年3月末現在6,416人となっており、総世帯数は1,912世帯となっています。



農 業

舟形町では農業が基本産業であり、営農類型も水稻を中心とした経営となっています。

特に、昨今の厳しい農業情勢につきましても、当町も例外でなく生産調整や米価の低迷、あるいは、農業従事者の高齢化、耕作放棄地の拡大などもあり、大変厳しい状況となっています。

こうした中で、町では新庄もがみ農協とともに、農業所得の拡大を図るため水稻を中心としながらも安定した農業所得を図るために、園芸作物の拡大、ハウス等の施設整備、産直、地産地消や食育活動を取り入れながら農業経営の確立を図っています。

土地利用型ではニラ、アスパラ、きゅうり等の作付が拡大しており、施設園芸ではトマト、食用菊等、また、冬期間の作物として「うるい」、「たらふの芽」などの山菜を取り入れた周年農業も進めています。

しかし、降雪や日照不足など、中山間地に属するが故の自然条件もあり、生活面だけでなく農家所得にあっても都市部、平野部との格差も生じてきています。

こうした町ではありますが、比較的経営規模の大きい農家（5ha以上）が44戸、また、認定農業者が74戸という比較的明るい兆しも生まれてきております。

今後とも土地利用型農業や施設園芸も含めた畑作の振興、また、畜産も組み合わせた振興策と農業を中心とした6次産業の創出の振興策を講じながら、消費者ニーズや安全志向に対応した農業を目指しています。

※農家戸数、耕地面積等は別紙のとおり

中山間地域等直接支払交付金事業

舟形町における平成20年度交付金交付実績

対象協定数：28協定（内 10割交付：22協定 8割交付：6協定）

対 象 面 積：田 4,006,951㎡

交 付 金 額：53,622,210円

参加農家等数：農業者数 591名



縄文のビーナス

大平集落協定

集落の現状

町の中心部より北東へ4 km に位置し、世帯数 30 世帯で総人口 129 名、高齢者率が 25.6% で集落全体が高齢化しており、担い手も不足している。

内 容

協定面積：48.9ha（すべて田）

交付金額：8,793 千円

参加者数：29 人（農業者 26 人、非農家 3 人）

マスタープラン

○認定農業者を中心とした集落営農の立ち上げ

本集落は町内の他集落同様、集落全体として高齢化、担い手不足という問題を抱えており、行政や J A 等の指導や助言を仰ぎながら担い手の確保に全力を注いでいく。

また、認定農業者等が中心となり禁煙全国的に注目されている集落営農の立ち上げに向けても準備を進めていく。

○農用地等の多面的機能の持続と集落内の景観美化、環境美化の推進

若年層の都市部への流出防止や観光客等の集客力増進、農用地等の多面的機能の持続を目的とし、町内会等とともに集落内の景観美化・環境美化に積極的に努めていく。

活動内容

○農業生産活動等

- ・水路、農道の管理

（水路 9.9km 道路 10.0km）

○多面的機能増進活動

- ・景観作物（そば）を作付け

○農業生産活動の体制整備

- ・認定農業者の育成
- ・多面的機能の持続的発揮に向けた非農家との連携



これまでの主な成果

○担い手育成計画により認定農業者の育成が図られた。（目標 1 名、H20 実績 1 名）

○共同利用機械の導入により農作業の受委託や農用地の集積が図られた。（H20 実績 5.9ha）

○非農家との連携による景観形成作業（花植え約 500 本）により多面的機能が向上した。その結果、“ホタルの里整備”も行われた。

○中山間事業を通じて、地域の絆が強まり、人と人との交流が図られた。

舟形町の農業の概要

(2005年農業センサス)

1 農家戸数

専業農家	46戸	(7.34%)	H.12対比 △60戸
第1種兼業農家	132戸	(21.08%)	
第2種兼業農家	448戸	(71.56%)	
計	626戸	(100.00%)	
認定農家	74戸		(法人1も含む)

2 耕地面積

田耕地面積	1,480ha	※平均耕作面積2.6ha/戸 ※5.0ha以上 H12 19戸, H7 30戸, H12 44戸, H17 44戸 ※内訳 ～1ha 180戸 1.0～3ha 318戸 3.0～5ha 84戸 5.0ha～ 44戸
畑耕地面積	149ha	
普通畑	119ha	
樹園地	26ha	
牧草地	4ha	
(耕作放棄地)	(92ha)	
耕地計	1,630ha	

3 農業粗生産額 19.3億円

項目	生産額	項目	生産額
米	13.3億円(68.9%)	果樹	0.2億円(1.0%)
畜産	1.9億円(9.8%)	雑穀豆類	0.4億円(2.1%)
野菜	3.4億円(17.6%)	花き	0.2億円(1.0%)

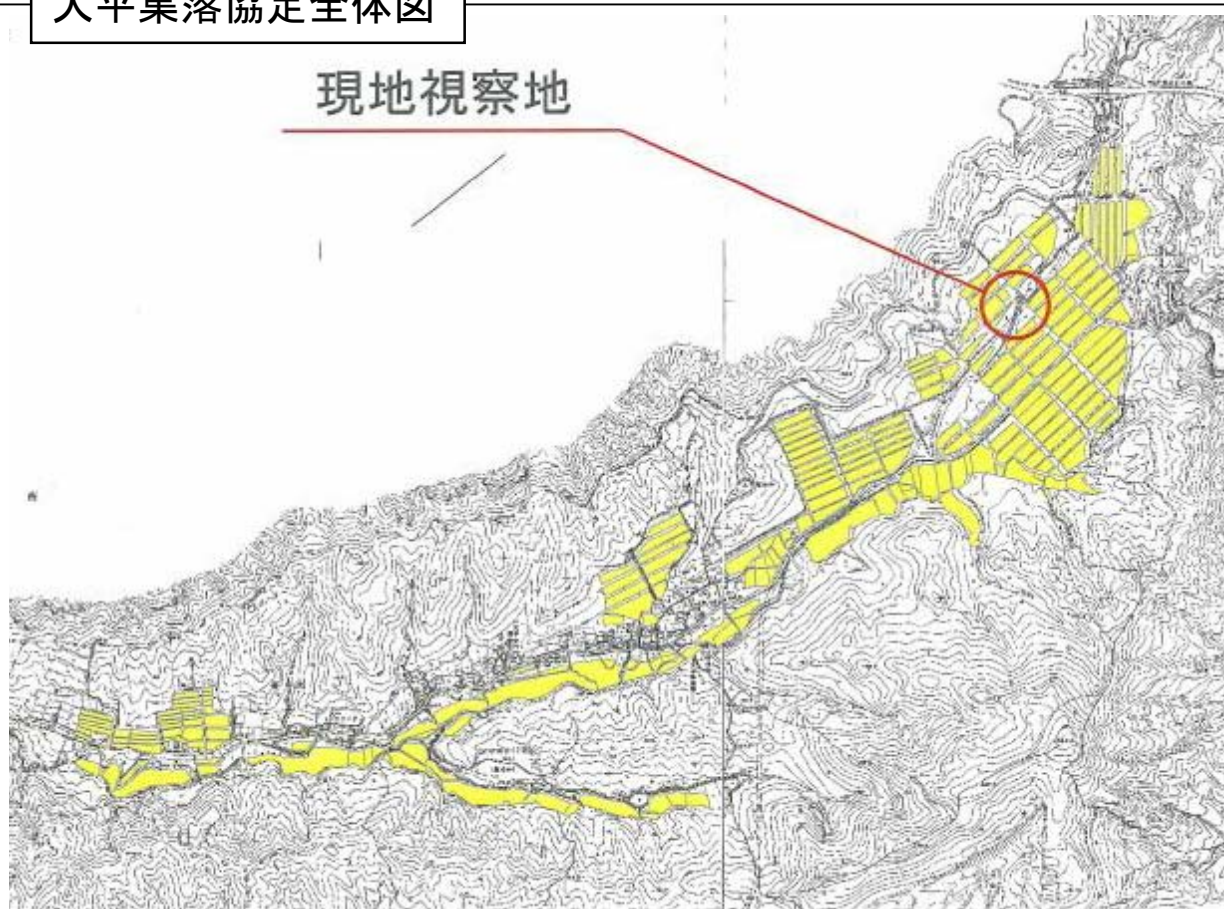
4 主要作物作付状況等

肉用牛	642頭(7戸)	スイカ	0.7ha(2戸)
乳用牛	174頭(3戸)	アスパラガス	1.0ha(6戸)
きゅうり	1.2ha(13戸)	夏秋トマト	0.5ha(8戸)
ニラ	7.2ha(34戸)	食用菊	0.1ha(2戸)
たらの芽	7.3ha(9戸)	うるい	2.3ha(11戸)

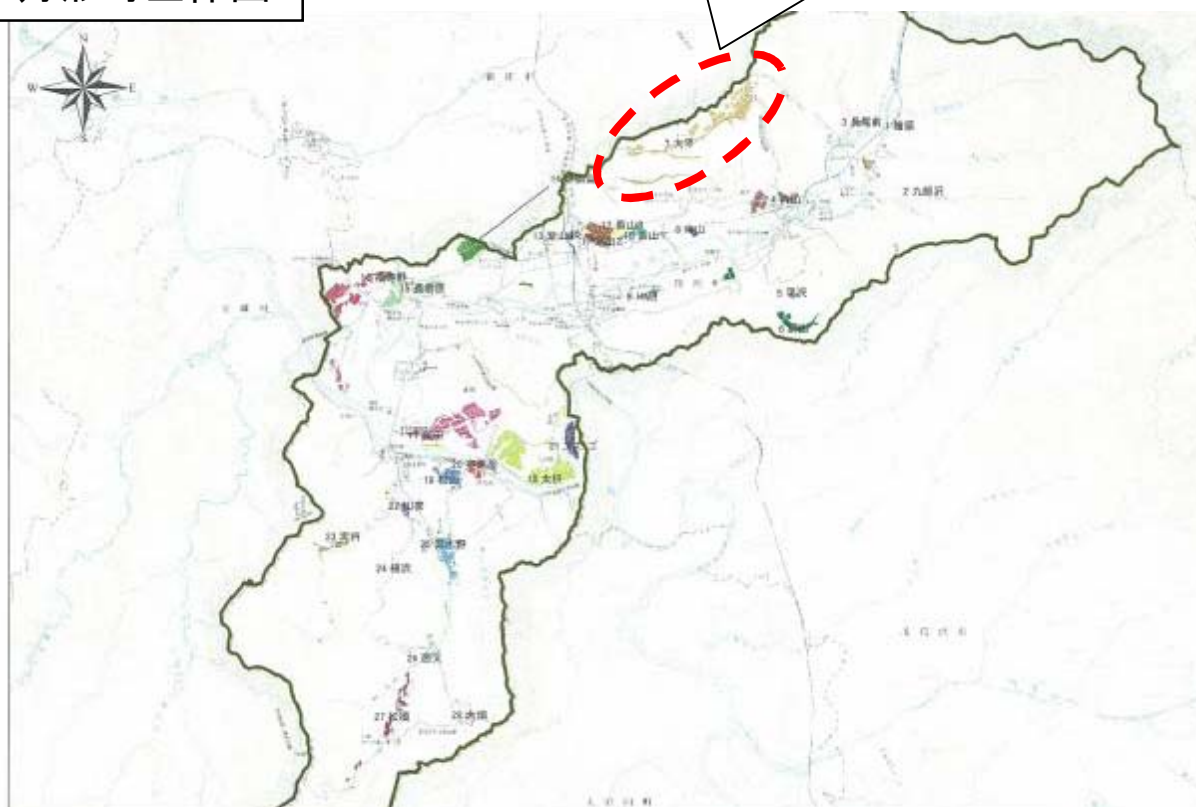
5 農業就業人口

	男	女	計	割合	摘要
30才未満	31人	31人	62人	6.5%	
30才代	5人	13人	18人	1.9%	
40才代	23人	28人	51人	5.4%	
50才代	71人	95人	166人	17.5%	
60才代	317人	334人	651人	68.7%	
計	447人	501人	948人	100.0%	

大平集落協定全体図



舟形町全体図



現地検討会を行う集落協定の概要

市町村協定名	山形県大蔵村豊牧（おおくらむら とよまき）			
協 定 面 積	田（100％）	畑	草地	採草放牧地
	47ha	水稲		
交 付 金 額	個人配分 20％			
	9,879千円	共同取組活動 （80％）	役員報酬	4％
			研修会、集落内整備管理活動費	34％
			水路・農道管理活動費	30％
			のり面管理費事務費等	10％
			元気な四ヶ村づくり活動費	2％
協定参加者	農業者 44人、非農業者 5人			
取 組 内 容	1 農業生産活動 ○水路、農道の維持管理 ○耕作放棄地の防止等の活動 2 多面的機能増進活動 ○周辺林地の下草刈 3 農業生産活動の体制整備 ○認定農業者の育成 ○多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携 ○機械・農作業の共同化			

[平成20年度までの主な効果]

- 担い手の育成の取り組みとして、認定農業者が増加した。（目標 1名、H 20実績 2名）
- 農業後継者が育成され、農地集積が促進した。（H 20実績 3ha）
- 水路（大堰）鋼管橋の支柱の取り付け工事により雪害が防止された。
- 畔塗り機 1 台を導入し、漏水防止に努めている。（H 18導入、実績 11,255m）
- ウイングモアー 5 台導入した。（毎年 2,500mの畔の草刈りを実施）
- 休耕田を活用して花（ハーブ）を植栽（H 20まで 300本）し、水路の法面に芝ざくら等を植栽（500m）した。

山 形 県 最 上 郡 大 蔵 村



大蔵村の「大」の字を「く」「ら」で図案化したもので両翼の羽根は、村の躍進を示し、中心の円は村民の融和を表したものである

村 長 加 藤 正 美

教 育 長 矢 口 仁

- ・役 場 所 在 地 大蔵村大字清水 2528 番地
- ・郵 便 番 号 9 9 6 - 0 2 1 2
- ・電 話 番 号 0 2 3 3 - 7 5 - 2 1 1 1
- ・F A X 番 号 0 2 3 3 - 7 5 - 2 2 3 1
- ・市町村コード番号 0 6 3 6 5 7
- ・市 町 村 別 類 型 I - 2



概 要

本村は、南部に出羽三山の霊峰月山や葉山がそびえ、北部を最上川が流れ、かつて最上川の舟運とともに 3 万 5 千石を有した清水公が最上地方を統治し、その中心として栄えた歴史と文化に育まれた自然豊かな美しい郷です。また、1200 年の歴史を持つ肘折温泉郷があり、昔ながらの風情がある湯治場として賑わいを見せています。

気象条件は厳しく、夏季には集中豪雨、冬季には多雪で年間降水量が概ね 2,500mm を超え、急峻な地形と相俟って、地滑りの常習地帯となっています。積雪期には、北西からの季節風が強く平年でも 3m を超す積雪深と 140 日を超える積雪日数であり、特別豪雪地帯に指定されています。

人口は、ピーク時の昭和 30 年には 9,044 人（世帯数 1,509 世帯）を有していたが、現在は 3,950 人（世帯数 1,118 世帯）と激減しています。少子高齢化が急速に進み、高齢化率は 31.1% に達しています。そうしたことから、昭和 45 年過疎法の施行とともに過疎地域指定を受け、以後、今日まで「自然とところがかようむらづくり」を標榜し、「住みやすいむら」・「住みたくなるむら」を目指して各種施策を展開しています。

また、失ったら二度と取り戻せない、そんな農山村の景観や環境・文化を守るため全国 18 町村と連携し「日本で最も美しい村」連合の活動を行っています。



総面積：211.59 k m²

（農用地 7.0%、山林 82.9%、宅地 0.4%、原野等 9.7%）

人 口：3,950 人（男 1,916 人 女 2,034 人）

世帯数：1,118 世帯

※平成 21 年 4 月 1 日現在

農 業

本村では、稲作中心の農業が基幹産業となっています。しかし、余剰米の発生による生産調整や米価の低迷を受け、近年、農家所得向上のため園芸作物や施設園芸を導入するなど、生産基盤の整備と経営近代化の取り組みを実施しています。

特に、ハウスを利用した夏秋トマト、ミニトマト、菌床しいたけや冬期間の「たらの芽」栽培などで周年農業を確立した農家が多くなっています。しかしながら、積雪寒冷地帯であるがゆえに中山間地でのハウス等の施設導入が困難であり、平地に農地を持つ農家と中山間地の農家との所得格差が拡大するという課題を抱えています。

そうした課題を解決するため、土地利用型で露地での栽培が可能な作物の導入を図りながら、消費者が求める安心・安全な農産物の生産と農家所得の向上を目指しています。

◎大蔵村の主な農産物の販売額 1, 169百万円（平成20年度実績（速報値））

- ・ 米 531百万円
- ・ トマト 157百万円
- ・ ミニトマト 93百万円
- ・ 他 の 野 菜 46百万円
（にら、きゅうり、ピーマン など）
- ・ 山 菜 28百万円
（たらの芽、うるい など）
- ・ 菌 茸 112百万円（しいたけ）
- ・ 畜 産 202百万円
（生乳、肥育牛、和牛 など）



中山間地域等直接支払交付金事業

平成20年度交付実績

対象協定数：16 協定（内 10 割交付：4 団体・1 個人、8 割交付：6 団体・5 個人）

対 象 面 積：2,047,142 m²

交 付 金 額：40,070,394 円

参加農家数：191 名（農業者数 183 名、非農家数 8 名）



大蔵村豊牧集落協定

集落の現状

当集落は、村中心部清水地区（役場）より約9km南西部に位置し、人口148人、世帯数38戸で、内農家数37戸である。田畑は棚田状にあり、堆肥を利用した有機栽培による良食味の棚田米の生産を中心にそば栽培などの複合経営が見られる集落である。

平成11年に全国棚田百選の認定を受け、その後の中山間地域等直接支払交付金制度の発足により、その景観維持と観光農業の振興を図ろうとする意欲が芽生え、農道整備や水路管理に全員が積極的に参加しており、集落のまとまりがより強くなって来ている。

協定内容

協定面積 47.0ha（すべて田）

交付金額 9,879千円

参加者数 農業者 44人、非農業者 5人



マスタープラン

・集落が目指す将来像とその実現に向けた活動内容

水稻に依存してきた当集落は、後継者不足が深刻化しており、将来に対する新たな生産基盤の確保をせまられている。自分たちの地域内の資源を再発見し、且つそれを最大限に活用した共同取組が求められている。具体的には、地域内に埋もれていた特産品や今後新たに取り組む地元の特産物づくりを推進し、地域全体が棚田状になっている地形を最大限に活用した観光づくりに力を入れることで、都会からの誘客や交流人口拡大を図る。これにより特産品の地区内での販売につなげ、地元での就労の場も生まれる。将来的には、農業農村の良さが大勢の来村者に見直され一時帰農や体験農業などの受け皿的役割を担い、若者や農業後継者が夢と希望を持って生活できる農村社会の構築を目指す。

・耕作放棄の防止等の活動

稲作経営規模拡大を目指す若者が地域に育ってきている。これらの担い手に農地集積を図り耕作放棄や遊休地の発生を抑止し、耕地の斡旋にあたる。また、転作田の畑地化を進め山菜等の特産品作りを目指す。そのためのマルチング等の機械を導入する。

・水路、農道等の管理用活動

集落に引いている用水路は急峻で脆弱な山肌位置し、維持管理に多くの労力を

要している。川からの取水場において土砂の流出を防ぐ手立てが必要でありこれらの改善を図る。

・多面的機能増進活動の実施

草刈り機（ウイングモアー）5台導入、下刈りの徹底を図るとともに、さらに畦塗り作業に対する助成等保水の為に万全を尽くす。

活動内容

1 農業生産活動

- 水路、農道の維持管理
- 耕作放棄地の防止等の活動

2 多面的機能増進活動

- 周辺林地の下草刈

3 農業生産活動の体制整備

- 認定農業者の育成
- 多面的機能の持続的発揮に向けた非農家・他集落等との連携
- 機械・農作業の共同化



平成20年度までの主な効果

- 担い手の育成の取り組みとして、認定農業者が増加した。
(目標1名、H20実績2名)

- 農業後継者が育成され、農地集積が促進した。(H20実績3ha)
- 水路（大堰）鋼管橋の支柱の取り付け工事により雪害が防止された。
- 畔塗り機1台を導入し、漏水防止に努めている。

(H18導入、実績11,255m)

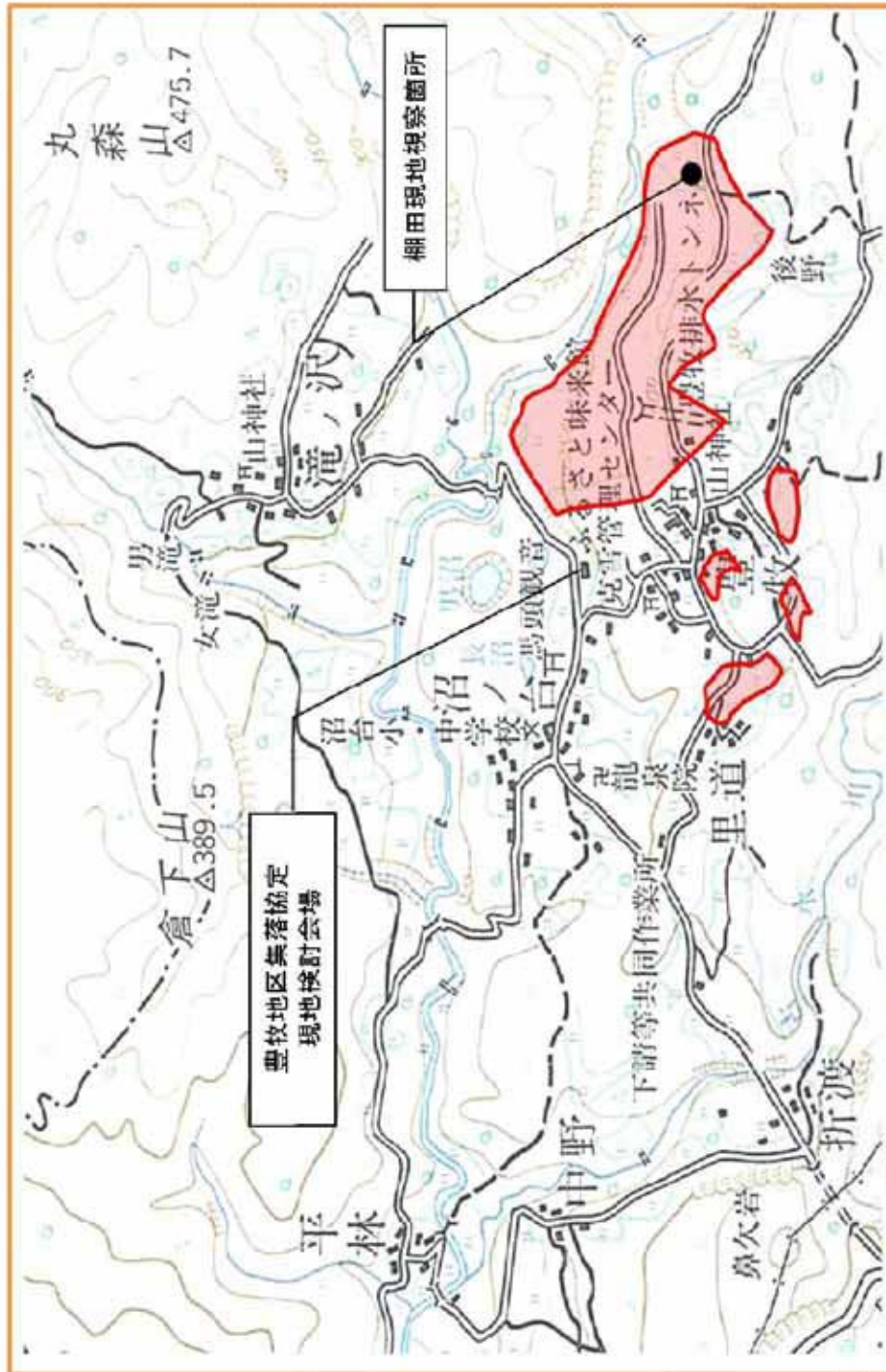
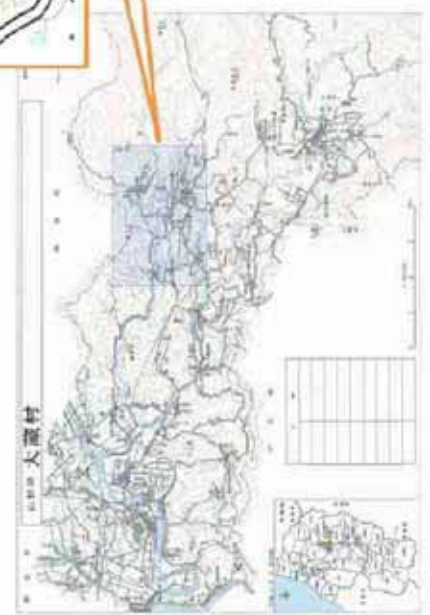
- ウイングモアー5台導入した。(毎年2,500mの畔の草刈りを実施)
- 休耕田を活用して花（ハーブ）を植栽（H20まで300本）し、水路の法面に芝ざくら等を植栽（500m）した。



大蔵村豊牧地区 集落協定位置図



凡 例	
	協定農地
	
	
	



横道の棚田(冬)



横道の棚田(夏)



ほたる火コンサート

現地検討会を行う集落協定の概要

市町村協定名	山形県鮭川村大平・上芦沢（さけがわむら おおだいら・かみあしざわ）			
協 定 面 積	田（100％）	畑	草地	採草放牧地
	31ha 水稲			
交 付 金 額	個人配分 20%			
6,561千円	共同取組活動 （80％）	役員報酬	7%	
		研修会・会議費等	18%	
		景観対策費等	21%	
		水路・農道等維持管理費	30%	
		法面の点検活動	4%	
協定参加者	農業者 20人、生産組織 1、曲川小学校芦沢分校			
取 組 内 容	1 農業生産活動 ○水路、農道の維持管理 ○耕作放棄地の防止等の活動 2 多面的機能増進活動 ○景観作物の作付け 3 農業生産活動の体制整備 ○機械・農作業の共同化 ○自然生態系の保全に関する学校教育との連携			

[平成20年度までの主な効果]

- 本事業の実施により、そば団地生産組合（組合員数20人）が育成された。
- 団地化による、機械・農作業の共同化（目標8.5ha、H20実績15ha）
- 学校との連携による作物の観察や収穫等の体験学習、川遊び等を通じた自然学習（実証ほ H20実績1a）

山形県最上郡鮭川村



概 要

本村は、県北部に位置し奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた盆地で形成され、村中央部を南下する鮭川やその支流に沿って農用地、居住地がひらけています。東部は比較的平坦地で耕地が多く、西部は出羽丘陵とすそ野にあたり、豊かな森林地帯となっています。

総面積： 22 2 m²

(割合：農用地 5 森林 宅地 原野 その他 5)

気候は、裏日本型の積雪寒冷地帯に属し、季節風の影響で積雪期間は 2 月中旬頃から月中旬までの ヶ月間にわたり平均最深積雪も 5 c mとなります。

人口は、昭和 25 年をピークに減少し現在は 5 人となっています。高齢化率 %、年間出生者数 25 人程度となっています。核家族化が進むなかでありますが三世同居率 5 %は県下 位となっているのも村の特徴です。少子高齢化が急速に進んでおりますが地域振興法により昭和 55 年、平成 2 年の過去 2 回「過疎地域指定」を受け、「人と人、人と自然が共存する村」を目指して諸施策を展開してます。

世帯数： 戸

人 口：5 人 (男：25 人 女：25 人)

※ 平成 2 年 月 日現在

農 業

基幹産業である農業は、生産基盤・経営近代化施設の整備を図りながら、水稻を中心に菌茸類・野菜・山菜・花卉等の園芸作物の栽培を積極的に推進しています。

また、きのこの生産量は全国有数の生産県である山形県の約半分をしめ、種類の豊富さに加え品質の良さが「きのこ王国」の異名をとるまでになりました。特に近年は菌床しいたけの培養センター、パッケージセンターの整備をはじめ栽培用ハウスの整備により品質のバラツキがなく市場評価も高いものとなっています。

また、自然と共生と暮らしがつながる創造の村を目指す本村は、平成 年 2 月に「環境基本条例」制定、翌年には「環境農業推進計画」を策定し持続可能な農業の構築を図ることとし推進しています。特に、農業ではエコ農業を推進しながら、健全な農地で安全・安心な農作物の生産と農家所得の向上を目指しています。

◎ 主な農産物の販売額（H2 年実績 産業振興課調べ）

・ 米	55 百万円
・ 野菜	2 百万円（きゅうり、ししとう、トマトなど）
・ 山菜	百万円（タラの芽、わらびなど）
・ 花卉	2 百万円（トルコギキョウ、バラなど）
・ 菌茸	百万円（しいたけ、なめこなど）
・ 畜産	5 百万円（養豚、和牛など）

中山間地域等直接支払交付金事業

鮭川村における平成 20 年度交付金交付実績

対象協定数：2 協定（内 割交付：2 協定 8 割交付：5 協定）
対 象 面 積：田 5 8 5 m² 畑 52 288 m² 合計 5 8 2 5 m²
交 付 金 額： 8 2 8 円
参加農家等数：農業者数 5 5 名 非農業者数 2 名
生産組織参加 団地 学校との連携 5 団地



大平・上芦沢集落団地組合

集落の現状

村の中心部より西へ5に位置し、戸数2戸で他集落よりの耕作者の開田が多くある。稲作を中心として平均2の経営規模であり、きのこと類やそば等も作付けしている。

経営主の平均年齢は58歳ぐらいで、若手の担い手が少なく、将来が心配される現状である。

集落内には、曲川小学校芦沢分校があり地区の人々との交流も盛んに行われている集落である。

内 容

協定面積： 2 8 m² (すべて田)

交付金額： 5 828 円

参加者数：農業者 2 人、生産組織 1 そば団地生産組合、曲川小学校芦沢分校

マスタープラン

持続的な農業生産活動等を可能にするために、農家間で協定を結び作業の共同化・作業受委託をはじめ機械の共同利用を実施し、農用地の維持管理を行う。また、非農家との協定を結ぶことにより、地域の繋がりを強化していく。

芦沢分校と協定を結び、児童が自然体験を通じて自然からの恵みを実際に肌で感じることで『自然の大切さ』や『収穫の喜び』を学び『心の豊かさ』を育むことができるよう活動を行っていく。

活動内容

◎農業生産活動等

- ・水路・作業道の管理（草刈等 年2回） 水路 8 道路 5

◎多面的機能増進活動

- ・景観作物を作付け（花いっぱい等の取り組み）

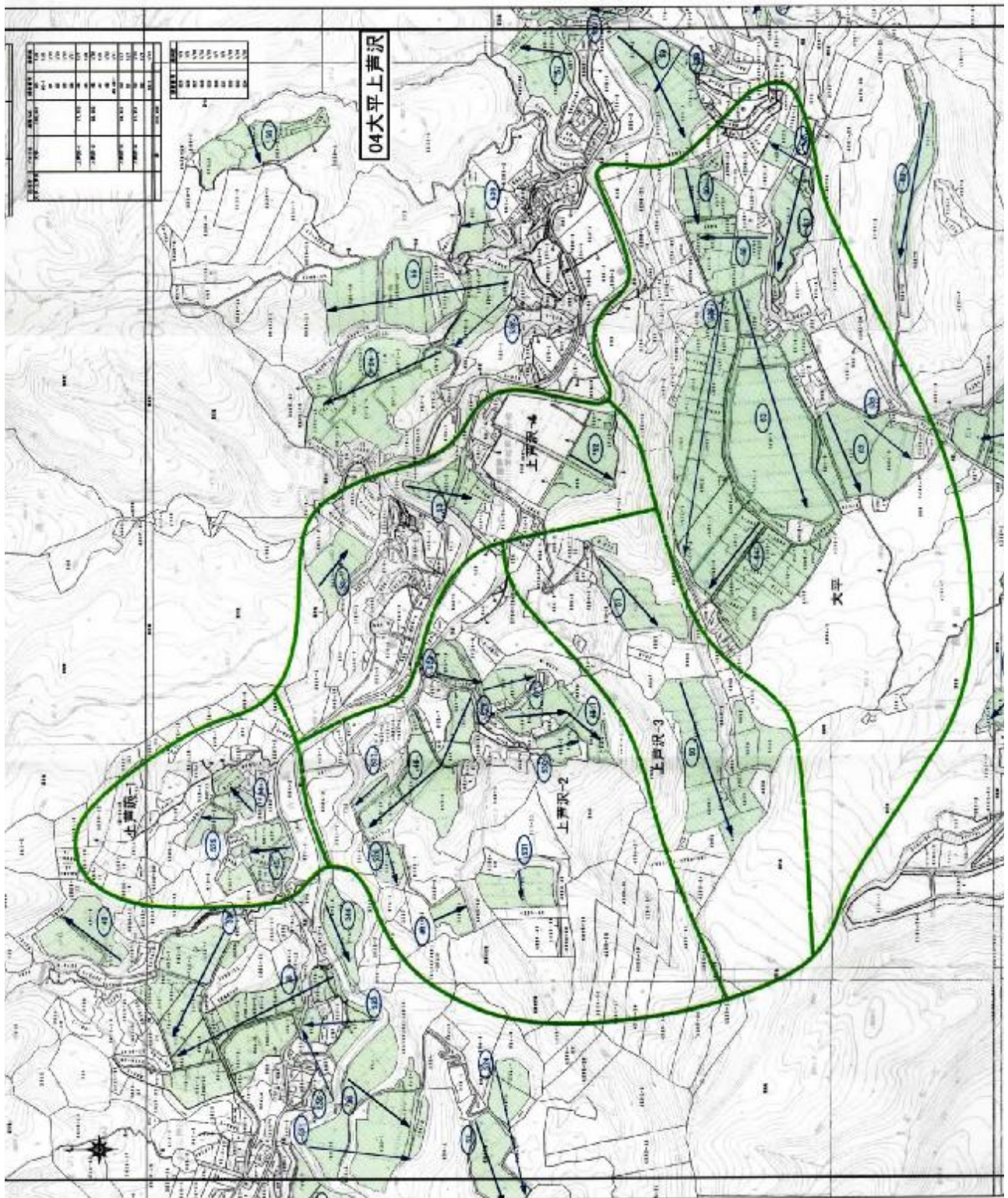
◎農業生産活動の体制整備

- ・機械・農作業の共同化（そばの耕起・播種作業等）
目標 85 （平成2 年度実績 5 全体の 8 ）
- ・自然生態系の保全に関する学校教育との連携

学校の体験用としてそば を作付けから収穫までをはじめ、野菜や稲などの観察を行いながら収穫体験。後日、収穫祭を行う。また、川や山などでの遊びを通じて自然体験を学習する。

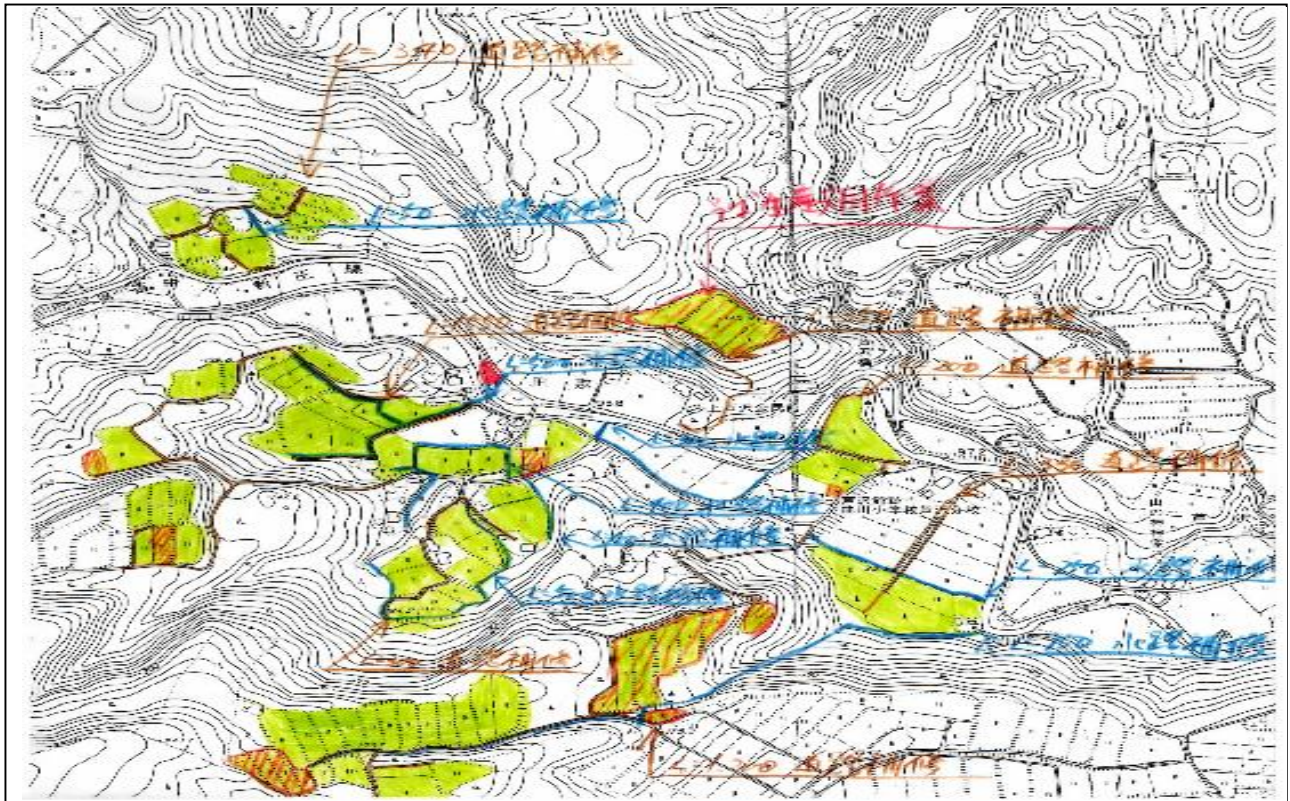


大平・上芦沢集落協定全体図

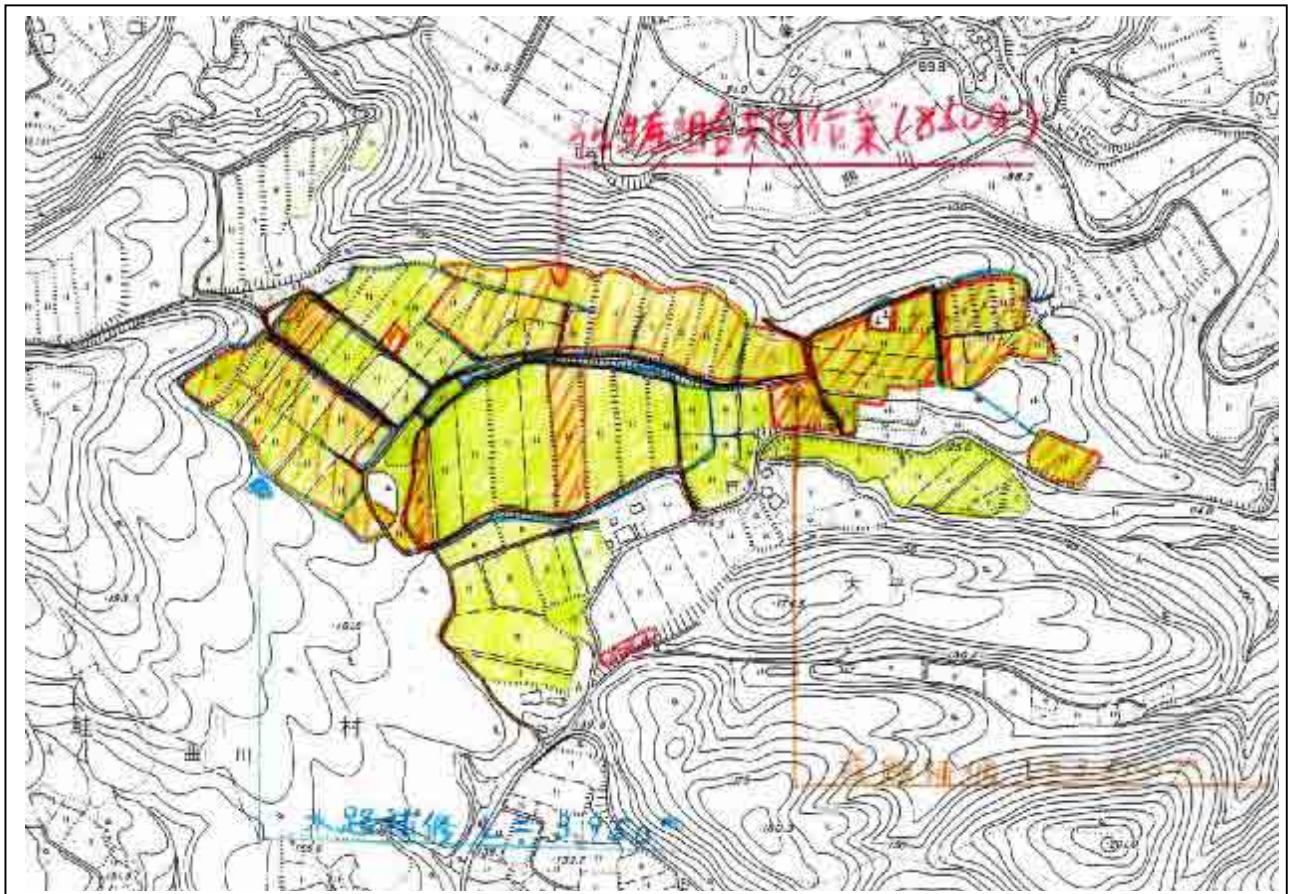


農用地保全マップ

【 上 芦 沢 】



【 大 平 】



「曲川 木の根坂」にはほんの里100選に選定



◆「ゆい」結束し頑張る

素雪地。作業を助け合う「ゆい」の結束が固く、閉校した分校校舎を体験型宿泊施設「みやまの里木の根坂」に、生物調査も行う。

一に「里」の里一〇〇選ばれた。新日本製菓千一三〇周年記念事業の一環で森林文化協会創立三〇周年記念事業を兼ねて行なわれた。選定委員長に賀さんシリーズで有名な映画監督の山田洋次氏を迎え、厳正な審査のもと応募総数四四七四がら一〇〇の「里」が選ばれた。山形県では七四の応募があり、鮭川村一畝川木の「根坂」と小国町「小三門」が選ばれた。

今後、朝日新聞テレビ朝日系列テレビにより各地の紹介や特別番組が予定されている。

選定委員長 山田洋次



「にほんの里」の「郷」というタイトルを好んで用いたのは、郷に愛したのだから、さかしの郷土や故郷の文化を懐かしく思っているような地方が、国々たちの間に「の」のくすも思っているような、こころの不安だった。

しかし、その足を開けてみて驚いた。寅さんの映画監督として日本中を歩き回った経歴など伝実に驚愕でナンセンスといふことを感じ知らされた。なんと而も書籍数四千、立候補と推薦が重なったのは以て二テテ所以上の魅力に溢れた候補相がずらずと出揃ったのである。一〇〇〇名といふことはい半端二テテ所しか選べないことになる。これは大勢の目になったと過激派は驚き、その目には自分のお推挙も動員が影に落ちていた。

手分けをして日本中を歩き回るスナックの哲治は並大抵のことではなかつたし、連日幾度も迷ひに迷つた。――〇〇にこたわらず五カ所や十カ所泊りやしてち、という様子であったが怪訝――〇〇に幾多しかなかった。この一〇〇選以外にもこの国にはまだまだ素敵な中が只山あるのだ、ということと、客語者の皆さんには是非お伝えしたい。